

平和とより良き生活のために

# C.Com.

JAN.2019 VOL. 71

広島の生協

広島県生活協同組合連合会  
■発行 2019年1月10日

次  
代

新春の挨拶 ..... 1

広島県生活協同組合連合会

会長理事 岡村信秀 会長理事

特集Ⅰ：「次代へ…」 ..... 2-4

高校生平和大使に聞く

特集Ⅱ：西日本豪雨災害支援活動

・みやぎ生協・いわて生協 ..... 5-6

会員だより・トピックス ..... 7-9

・HJC 協同組合学校

・ヒバクシャ国際署名

・沖縄県生協連研修・広島県への要請

・トップケーススタディ研修・消費者の集い

事務局だより ..... 10

・広島県庁からのお知らせ

・消費者ネット広島情報

・理事会・委員会報告

『ヒバクシャ国際署名』に思いを寄せて … 11

バレリーナ 森下洋子 氏

・編集室から

【表紙写真】広島湾の夜明け

南に広島湾をのぞむ広島市は、海と島、そして山がパノラマとして展開する恵まれた環境にある。日が昇る東には、江田島、似島、呉の山並みが、日が沈む西には、神の島宮島がその特異な島のシルエットを見せ、東西何れの景観も、「朝日」と「夕日」を美しくする。写真は、広島市の西方面から、日が昇る東方面をのぞんだ光景だ。画面の中央には、「安芸の小富士」と呼ばれる似島が朝日を浴びてその名にふさわしい稜線を見せている。



# 人間の尊厳と人と人の結びつき

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、2014年の土砂災害から4年もたたないうちに、再び大災害に見舞われ、自然災害の恐ろしさが改めて顕在化した年でした。会員生協は組合員・役職員が一丸となり募金活動や被災者支援を継続的におこない、当連合会は情報や支援の窓口を一本化し、全国の生協の仲間と共に被災者支援に総力を上げました。また広島県との連携も効果的に遂行され高い評価を受けています。支援活動を通じて改めて実感することは地域での人と人との結びつきの大切さです。想定外の被害が日常化している昨今、私たちは改めて防災・減災に対する抜本的な見直しが迫られています。また近年の異常な集中豪雨や猛暑の常態化は地球温暖化が背景にあるという専門家の指摘もあり、省エネの促進と再生可能エネ

ルギー（エネルギーの地産地消）の拡充が急がれます。

今年の10月消費税増税が実施されます。食料品を中心に軽減税率の導入が決まっていますが、消費税は逆進性が強く消費者にとっては負担増であり生活は苦しくなります。そもそも、消費税は社会保障費の財源を増やし、財政の立て直しにつなげるのが本来の目的だったはずです。今後は累進課税の見直しも含め、持続的な社会保障の枠組みと増税を結びつけた根本的な議論が求められます。

くらしをめぐっては、貧困と格差の拡大、生活困窮者の急増、人間関係の希薄化、孤立化など、いざというときの「不安」が常につきまといます。広島県の調査でも子どもの貧困が浮き彫りになつております。貧困の連鎖が深刻化してきました。地域社会の一員として活動する協同組合は、人と人との結びつきを土台に、困った時のおたがいさまの助け合いを一層促進させることが期待されます。

そのような中、2016年11月、協同組合の思想と実践がユネスコの「無形文化遺産」に登録されました。人々の多様性や創造性を認め合い、心の豊かさ、環境や文化・伝統的価値の保全・再生、人や自然とのつながりや、助け合いなどの無形価値を大切にしてきた協同組合が、高く評価されたからです。今後に向けては、人間の尊厳を最大の価値として、共に育ち、共に働き、共に生き、「幸福感」や「夢と希望」が感じ取れる共生社会の実現がめざすべき方向性です。その場合、協同組合の使命は生命とくらしの根幹である食・食料、環境・エネルギー、ケアの地域循環と行政や諸団体との協同のネットワークにより、セイフティネットをくまなく張りめぐらすことです。



広島県生協連 会長理事  
**岡村 信秀**

人間の尊厳を真っ向から否定するものが戦争と核兵器です。核兵器の開発や使用を禁止した核兵器禁止条約は、現在69カ国が署名し19カ国が批准しました。その動きと連動するように始まったのが「ヒバクシャ国際署名」です。署名数は現在830万筆を超えており、県内では43万筆に達しました。私たちは被爆者の皆さんが高い齢化する中、被爆者の思いや願いを継承し、戦争も核兵器もない平和な世界の早期実現をめざし、ねばり強く活動を続けていきます。

# 特 集

## 高校生平和大使に聴く



(写真上)  
国連軍縮部カスペルセン所長（中央）と高校生平和大使  
(写真下)  
左から広島県生協連高田専務理事、高校生大使の開原さん、  
久保田さん、下久保さん

# 次 代 へ 伝 える

## 高校生平和大使への応募とそのきっかけ

高田 今日は、私たち生協連のために足をお運びいただきありがとうございます。早速ですが、三人とも「高校生平和大使」に応募した動機やいきさつから話していただけますか。

開原 理由は二つあります。一つは私の曾祖父が広島で被爆しているということ。もう一つは近年「平和学習」が増えて平和のことを知ったことにあります。福山で生まれ育った私には、あまり平和学習の機会がなくて、曾祖父の話を聞いておくのだった、という思いがありました。下久保 私は広島で生まれ育って広島市の高校に通っています。あまり人と話す方ではないのですが、平和学習いろいろ学ぶうちに、興味がわいて、新聞記者である私の父にいろいろ教わって、この平和大使に応募しました。

広島県生協連は創立して50年を経た。そして、「平和とよりよい生活のために」というスローガンを今日まで一貫して掲げ、事業や活動を開拓してきた。スローガンの冒頭に「平和」の2文字を掲げている生協は、より良い生活のための事業を目指すとともに、世界平和をも同時に希求する団体として、今日の社会の中で平和活動のリーダーシップをとり続けてきた。

2017年7月に国連で「核兵器禁止条約」が採択された。米国のトランプ政権が標榜する「自國第一主義」の嵐が世界中に吹き荒れる中、ノーベル平和賞を核兵器廃絶を訴える「ICAN」が受賞。平和をスローガンに掲げ、平和運動を後押しする生協の活動にも弾みがついた。そこで、平和活動の次の世代をになう「高校生平和大使」に問い合わせ、その思いを聞き紹介したい。



開原弓喜  
かいはら  
ゆき



下久保理子  
したくぼ  
りこ



久保田音美  
くぼた  
ねみ

## ●プロフィール

福山市在住  
2002年3月生まれ  
福山暁の星女子高等学校2年

## ●プロフィール

広島市西区在住  
2002年3月生まれ  
ノートルダム清心高等学校2年

## ●プロフィール

広島市安佐南区在住  
2001年11月生まれ  
広島市立沼田高等学校2年

## 高校生平和大使

1998年5月、核拡散防止条約(NPT)に加盟していないインドとパキスタンが相次いで核実験を強行し、世界中が核拡散の危機感を募らせた。「ながさき平和大集会」(現「高校生平和大使派遣委員会」)に参加する約50の平和団体は、核の惨禍を知る被爆地ヒロシマ・ナガサキの声を世界に伝えるために、未来を担う若者を「高校生平和大使」として、国連に派遣。1998年から毎年、高校生平和大使は国連を訪問し、核兵器廃絶と平和な世界の実現を訴えてきた。1999年の第2代まではアメリカ・ニューヨークの国連本部へ、2000年代3代からは軍縮会議が開かれるスイス・ジュネーブの国連欧州本部を訪問している。



【聞き手】

広島県生活協同組合連合会  
専務理事

高田公喜

高田 なるほど、そういう環境があったのですね。  
久保田さんの動機は?

久保田 私は生まれがメキシコで、幼い頃は海外で育ちました。だから3つの国の言葉を話せることがあって世界中の国の人たちと話す機会が多くて、国際協力や異文化に興味があつたからです。

高田 三者三様、同じ世代だから動機も似ていると思いま  
したが、皆さん心慕の動機ときつかけが違いますね。

久保田 私は特に覚えてはいないのですが、小さい頃から  
平和についてはいつ頃から意識しはじめました?

久保田 私は特に覚えてはいないのですが、小さい頃から  
平和や戦争、国際政治、哲学について話すことが好きでした。

高田 皆さんは平和大使に選ばれました。

高田 皆さん高い競争率から「平和大使」に選ばれました。

高田 自分が平和大使として活動できる嬉しさと、改めて、曾祖父が家族にも話せなかつた辛い思いを世界に伝えよう  
という思いがわいてきました。

下久保 自分は、2回目の応募で平和大使になれました。  
まだ未熟なので、国際的な場で伝える力にはなれないのですが、被爆者の経験、核兵器の恐ろしさ、ヒロシマの理想、どうして広島の被爆者が核兵器廃絶をしたいという思いに到つたか、ということを私たちの世代が発信していくなければという強い思いが生まれました。

久保田 私は、これといったことは思い浮かばないので、  
が、平和についてしつかり考えようと思いました。そして、  
私にできることにフォーカスして、自分にできる範囲のこと  
とをしようと思いました。

## 大使としての活動と国連を訪問して

高田 1998年から平和大使の一つの役目、国連を訪問して署名を手渡し、核兵器廃絶と平和な世界の実現を訴えました。生協連も、同じ目的をもつた『ビバクシャ国際署名』の後押しのため、ここにその事務局を置いていました。みなさん、国連に行つて、世界の大使と話し合いました。その時の思いと印象はどうでした?

開原 大使になって、8月頃には大使の仕事が始まり、広島では署名活動、福山ではピースラボに参加して戦争や核廃絶を訴えました。そして国連に、核保有国の大使と話して、まず驚いたのは、「核の抑止力」という考え方です。今では、そのことは理解できるのですが、核兵器を「絶対悪」だと言っている私たちの方が、少数派だったことに驚きました。

高田 私は自分の考えをもつて平和活動をすることに誇りを覚えました。人の前で自分の考えを話すことは怖いし、批判されるかもしれないけど、それより元気を読んで黙つていてる私の方が怖いと言うことに気づけました。イスラエルでは、英語・スペイン語でたくさんの外国人の方と交流がてきて、自分の思いを伝えることができたことが、私自身に科していた課題を一つクリアできたと思っています。

高田 下久保さんはどうですか?

下久保 日本国政府が主催するレセプションの会場でいろんな国の外交官の方とお話をさせて戴きました。広島の「核兵器廃絶」の思いは一つだと思っていましたが、核兵器保有国の外交官に「核の抑止論についてどう思われますか?」と聞くと、どの核保有国の方も最終的には核兵器廃絶が必要だが、「核廃絶に向かう段階の安全保障の面で核兵器が必要だ」と言われました。「必要」と初めて聞いた言葉だったので衝撃でした。ですが、それでも広島の人間として、その上にヒロシマの被爆した人間の思いがあるということをお伝えしました。

## 祖父母からちゃんと聴いておけば…

## 生協の思想信条を超えてという考え方

高田 今私たち生協はスローガンにある「平和とよりよい生活を」という目的で事業や活動を続けています。生協は本来の目的である、社会や人々のよりよい生活のための努力をつづけています。つまり、協同の力で、地域や人々のくらしを豊かにすることを目指しているのです。

くらしを豊かにするには、社会が平和でなければなりません。生協は平和活動についても、思想信条を超えて積極的にその後押しをしたいと考えているのです。

そこで、若くして率先して平和活動をされている皆さんにお聞きします。世界は、平和とは眞逆の新しい「冷戦」、「自國第一主義」の方向に向かっています。どうすれば平和を維持し、核兵器廃絶ができるか、皆さんの思いと考え方を教えてください。

開原 私は、平和大使としてまず自分の軸となるものをもつ。その軸をもつてさまざまな考え方をもつた人と対話し、自分のできることを見つけたらすぐに行動を起こしてみるということに気づきました。そのうえで、過去を振り返って考える機会を提供することが大事だと思います。自分の意見と違う人たちと話し合いそれによつて世界中で繰り返される戦争という悪いループを打破する方策を模索するべきだと思います。

高田 久保田さんはどう思います？

久保田 先ほど私は、黙っている方が怖い、と言いましたが、いろんな大会や会合に行つても大学生や高校生、つまり若者が少ないので。若者がもつと参加しやすい環境や場をつくる必要性を感じています。そして、若者と年配の方が共に交流し考えを深める場も要ると思いました。

下久保 私たちは経験していない、というのが活動に入る前の私でした。私はまだ若いので、国際的な場で伝える力になることはできないかもしれません。必要悪・絶対悪ということを言う人もいるけど、どうしてヒロシマの人や被爆者の方が核兵器廃絶という思いに到つたかということを、私たちの世代が発信していくなければ、改めて思いました。ICANのサード節子さんは、「伝

えて欲しいのは事実もそうだけど、被爆者の経験を皆さんにさせてはいけない、という思いを一緒に伝えて欲しい」と言されました。そいつた思いを私たちが替わります。

高田 国連で日本政府の代表の方が、「登り方は違うけど、ゴールは一緒ですよ」と言われたことは理解できますか？開原 いろんな考え方の人と話して、今では一応は理解できます。

久保田

しかし、それを全部受け止めたら、平和活動とはかけ離れていると思います。どちらかが一方的に主張して、とうのではなくて、お互いに話合うのが一番だと私は思います。

高田 生協の平和に関する考えは、思想信条の自由ということが基本です。「〇〇よりいいよね」という相対論ではない。ですから、平和の問題は、思想信条に関係なく絶対的に平和でなくちゃいけない、ということです。これは理想です。しかし、平和に関して理想をもたなくては意味がないと私は思っています。

開原 私は今、話し合っていたおじいちゃんから、もつと聞いておくべきだった、と思っています。そのうえで、福山で次の世代に伝える「次世代」の人を見つけることだと思っています。もう一つは、福山で催される活動に参加して、福山の平和活動をアピールしていきたい。

久保田 私は美術が好きで、美術と結びつけた平和活動ができればいいなと考へています。広島は、開原さんに任せて、私は海外に出て行こうと思います。

下久保 将来私は大学に進んでいると思いますが、大使になつて、まず自分が思ったことは、「まず、広島だな」ということでした。広島が被爆の実態を伝えていくという責任を持つている。自分が一広島人として、広島の地に来られた人に對して、被爆者の方達の思いを今までよりもしっかりと伝えていかなければと考へています。一広島人として何ができるか考えていきたいと思います。

高田 あらためて思想信条の自由。生協の平和に対する考え方の理想ですが、皆さんの考え方をお聞きして、「三者二様」で、実にすばらしい、ということを思いました。私たち生協も、あなた達のような考え方をのびのびと發揮できるような社会づくりをしなければならないと改めて思いました。



# あつたかい仙台芋煮を井んで交流～みやぎ生協の組合員さんと職員による炊き出し支援～

宮城県から炊き出し支援にやってきたみやぎ生協職員の高村さんは、「今回の広島の被害は大きく、多くの方が避難所や仮設住宅での不自由な暮らしをされています。宮城へは、広島の生協から『お好み焼隊』として2012年～2015年まで継続してご支援をいたいたことから、宮城から広島への被災地炊き出し支援活動に来ました。」と、

炊き出しにこられた理由を説明されました。

高村さん達は、今回、みやぎ生協への支援の恩返しとして、11月24日、安芸郡坂町の平成ヶ浜仮設住宅で、宮城県の郷土料理「仙台芋煮」を、広島の皆さんに食べて頂くことにしました。

かけて運んで来られたそうです。

炊き出しの最中、みやぎ生協理事の田中さんは、以下のように話していました。

「広島の皆さんには東日本大震災後、お好み焼隊として大変お世話になりました。今回、広島の被災者の皆さんが、初対面の私たちに坂町の被災当時の話をしてくれださったのが、強く印象に残っています。広島に来て、東北大震災の際に広島から支援に来られた方の想いを感じることができ、これまで以上に広島の方々の活動に深い感謝の念を感じました。復興は目に見えるものばかりではないですが、お互いの気持ちをやりながら支援活動を続けていきたいと思っています。」と。

たんですよ」と声をかけながら交流をはかり心のケアも行なっていました。

みやぎ生協職員の和賀さんは、「土砂の焼き出しボランティアの方にも仙台芋煮を食べてもらい、「遠くからありがとうございます」との声をかけていただきたい事を大変うれしく思います。」と炊き出しの感想を述べています。

日本大震災を思い出させる災地は、まるで7年前の東日本大震災を思い出させるような状況でした。」と話されたのが心に残りました。

当日、みやぎ生協職員3名は、東日本大震災の避難者に振る舞った際の炊き出し用の鍋機材一式を、ワゴン車に積み込んで、20時間

# 古 事 考 者



具だくさんの芋煮



みやぎ生協と生協ひろしまの皆さん



坂町の被災者の皆さんとみやぎ生協の組合員さんとの交流



大きな釜、持参で芋煮を作っていただきました

# みやぎ生協

# いわて生協・生協ひろしまが坂町で炊き出し支援～岩手県郷土料理「ひつつみ」で心も身体もほっこりしました。

7月の豪雨災害からちょうど5か月経った12月7日、8日の2日間、安芸郡坂町平成が浜中央公園にある仮設住宅で、いわて生協と生協ひろしまの職員と組合員が一緒に炊き出しを行いました。

いわて生協は、2011年の東日本大震災で大きな被害を被った生協の一つです。東日本大震災後、生協ひろしまの職員が、被災された東北の方々にお好み焼を食べて頂こうと、お好み焼隊派遣の活動を続けてきました。それ以来、いわて生協と生協ひろしまのつながりが持続し今日まで交流をもつてきたということです。

お好み焼隊派遣以来、いわて生協の皆さんには「どこかで支援の恩返しがしたい」と思っていたことについて、今回の炊き出し支援につながりました。

いわて生協の支援の恩返しは、12月7、8日、岩手県の郷土料理『ひつつみ』を被災者の皆さんに食べて

いました。

いわて生協は、2011年の東日本大震災で大きな被害を被った生協の一つです。東日本大震災後、生協ひろしまの職員が、被災された東北の方々にお好み焼を食べて頂こうと、お好み焼隊派遣の活動を続けてきました。それ以来、いわて生協と生協ひろしまのつながりが持続し今日まで交流をもつてきたということです。

（ひつつみ＝名の由来）をいれて完成です。当日、料理が出来上がる前から集会所には次々と仮設住宅の入居者の方が来訪れ、鍋が出来上がるのを心待ちに待つておられました。中には、鍋やどんぶりを持参されご家族に持つて帰られる方もいました。

温まって頂くことになります。岩手県の郷土料理「ひつつみ」は、大きな鍋3つに人参、大根、シメジ、ねぎ、ゴボウ、鶏肉などの具材を入れて煮込み、最後に小麦粉を練って作った団子

（ひつつみ）さんは、「岩手の越前高田に引っ越した矢先に震災に遭いました。そんな中、生協ひろしまの『お好み焼隊』の方に来ていただきとても嬉しかったことを憶えています」とのひとこと。

生川さんは、今年広島が豪雨災害で大変だった事を知り、「広島の方には大変お世話になつたから感謝の思いで来ました。こうして皆さんに温まって頂くことが何よりです」と思いの丈を話されていました。他の組合員の方も東日本大震災では被害を受けられたとのことで、いわて生協職員の池田さんは「生協ひろしまの皆さんへの感謝の気持ちと、自分たちと同じように被災された方々に温まっていただきたいとの思いできました」と話されていました。

（ひつつみ）さんは、「岩手の越前高田に引っ越した矢先に震災に遭いました。そんな中、生協ひろしまの『お好み焼隊』の方に来ていただきとても嬉しかったことを憶えています」とのひとこと。

（ひつつみ）さんは、「岩手の越前高田に引っ越した矢先に震災に遭いました。そんな中、生協ひろしまの『お好み焼隊』の方に来ていただきとても嬉しかったことを憶えています」とのひとこと。

# ひつつみ



組合員の皆さんで協力して作りました



いわて生協の皆さん



岩手県郷土料理「ひつつみ」



仮設住宅の皆さんと生協の職員・組合員さんで談笑

# いわて生協



ワークショップ



講演会場の様子



各グループ発表の様子

12月3日、「平成30年度協同組合学校」がJAビル講堂で、県内の協同組合から20団体75名が参加して開催された。

今回の協同組合学校では、協同組合運動や持続可能な開発目標（SDGs）への理解を深めるとともに、構成団体への理解促進等を図るために、日本協同講師の中野氏

その後、9つのグループに分かれてワークショップを行い、17の目標の中で、すでに実施している取り組みを出し合い、その中で協同組合間連携として実施できそうな取り組みを話し合つた。実際に書き出してみると、ひとつの協同組合だけでは取り組めないことを連携することで可能性が拡がることが良く理解できた。

今回のワークショップを通じてお互いの取り組みを知ることができ、協同組合の強みを生かした協同組合間連携で真の豊かさや人間らしい生活の実現が可能になることを共通認識とすることが出来た。

（広島県生協連 森畠哲司）



SDGs の目標ごとに出し合った

ギー問題など多岐にわたって取り組んでいることが紹介された。

ギー問題など多岐にわたって取り組んでいることが紹介された。

ヒバクシャ国際署名活動は広島県全域で取り組まれており、9月末現在、430,725筆の署名が集まっている。

ヒバクシャ国際署名広島県推進連絡会は、11月20日、被爆者団体をはじめ15団体31名が参加して広島市中区元安橋で署名活動を行つた。

活動参加者が、県内外、海外からの観光客や修学旅行生が、吉岡副理事長の話を聴く真剣に聴く修学旅行生に見せながら、原爆投下時の話をされ、「核兵器はなくさないといけない！」と強い口調で語り掛けられた。

修学旅行生も、真剣な眼差しで話を聴き、話の後署名をしてくれた。

この日の活動は、正味30分の署名活動であつたが、その間400筆もの署名が集まつた。

この「ヒバクシャ国際署名」は、現在世界中で取り組まれており、広島県推進連絡会は2020年に向けて、140万筆を目標にこれからも署名活動に力を入れて取り組んでいく予定だ。

# HJC協同組合学校開催

広島県協同組合連絡協議会

# 400筆の署名が集まりました。 ヒバクシャ国際署名街頭署名

ヒバクシャ国際署名広島県推進連絡会



街頭署名活動に参加された皆さん



吉岡副理事長の話を真剣に聴く修学旅行生



外国の方にも署名をお願いしました



修学旅行生にも署名をお願いしました

修学旅行生に署名を呼びかけると、多数の方が耳を傾けその上で署名に応じてくれた。

廣島県原爆被害者団体協

議会の吉岡副理事長は、ご

自身の火傷の痕を修学旅

行に見せながら、原爆投下

の時をされ、「核兵器は

なくさないといけない！」

と強い口調で語り掛けられ

ていた。修学旅行生も、真

剣な眼差しで話を聴き、話

の後署名をしてくれた。

この日の活動は、正味30

分の署名活動であつたが、

その間400筆もの署名が

集まつた。

この「ヒバクシャ国際署

名」は、現在世界中で取

り組まれており、広島県推進

連絡会は2020年に向

けて、140万筆を目標にこ

れからも署名活動に力を入

れて取り組んでいく予定

だ。

（広島県生協連 森畠哲司）



被災地を視察する沖縄県生協連の皆さん



報告する広島県危機管理課の蜂谷氏

10月30日、31日、沖縄県生協連役員10名の皆さんが広島県生協連を訪れた。来訪の目的は、広島県生協連が広島県と「災害時における物資の調達等に関する協定」に基づいて連携し、西日本豪雨災害の対応を行つたことなど、生協連と県が良好な関係を築き実効性のある推進を行つてることについて視察学習すること。また、沖縄県生協連がこの研修交流によつて「県・県連・会員生協」の関係における実効ある運用をはかることを目的に来訪されたのである。

交流1日目は、西日本豪雨の被災地である安芸郡坂町を訪問。住民の被災状況、ボランティアセンターの運用・管理の状況を確認するとともに、現地で実際に支援した方々の話しを直接聞いた。

2日目は、広島県生協連事務所において、広島県生協連と広島県との連携した取り組みと支援活動を、広島県生協連側から報告し

た。また、参加いただいた生協連役員10名の皆さんがあなたから、広島県の災害対応、災害対策本部の活動、広島県生協連が災害対策本部へ連絡員を派遣し、連携して物資の手配をしたこと等の報告をいただき、その後、懇談を交えた交流をおこなつた。

そして、この日参加いただいた沖縄県生協連の方から、「土砂災害現場は予想外の大きな災害であったことや未だ生活再建できない実態、当時の対応など、普段からの県との関係作りやその他会員との日常的な連携など、たいへん参考になつた。」という感想をいだいた。

続いて、高田専務理事が、5分野（地域福祉・介護・医療・地域包括ケア、消費者行政、災害対策・防災、平和行政推進、環境・エネルギー）11の要請項目の趣旨説明をおこなつた。その後、出席した広島県の課長、主幹クラスから全要請項目に対して丁寧な回答があり、双方が今後の包括協定に基づく連携推進について確認し合うとともに懇談が行われた。

こうした県連からの要請を受けて森永局長は、「それぞれの部門で、問題提起していただいて、できる限り組むことで質が上がる」と生協への信頼の言葉を述べられ、「消費者に適切な情報を探し、消費者の立場に立つた行政を行なつていく」とまとめの言葉を述べられた。

最後に、高田専務理事から、森永局長はじめ太田県課長、各部署から総勢14名の方にご出席いただいた丁寧な対応への感謝、包括協定に基づいた行政と連携を強化して、豊かで安全・安心な地域社会の実現に向けて貢献する決意を述べて懇談会は終了した。

（広島県生協連 福島 守）

# 来訪 沖縄県生協連役員研修交流会

# 環境県民局長との懇談 広島県への要請



広島県の出席者



生協連の出席者

皆様は、広範囲に渡つて消費者の暮らしに貢献されている。今年2月に包括連携協定を締結しましたが、さらなる連携をお願いしたい。特に7月豪雨災害対応、義援金にはたいへん感謝している。」という言葉をいたしました。

最初に、岡村会長より森永環境県民局長へ要請書を渡し、要請書を受けて、森永局長からは、「生協連の2019年度に向けた懇談・要請を行つた。

続いて、高田専務理事が、5分野（地域福祉・介護・医療・地域包括ケア、消費者行政、災害対策・防災、平和行政推進、環境・エネルギー）11の要請項目の趣旨説明をおこなつた。その後、出席した広島県の課長、主幹クラスから全要請項目に対して丁寧な回答があり、双方が今後の包括協定に基づく連携推進について確認し合うとともに懇談が行われた。

こうした県連からの要請を受けて森永局長は、「それぞれの部門で、問題提起していただいて、できる限り組むことで質が上がる」と生協への信頼の言葉を述べられ、「消費者に適切な情報を探し、消費者の立場に立つた行政を行なつていく」とまとめの言葉を述べられた。

最後に、高田専務理事から、森永局長はじめ太田県課長、各部署から総勢14名の方にご出席いただいた丁寧な対応への感謝、包括協定に基づいた行政と連携を強化して、豊かで安全・安心な地域社会の実現に向けて貢献する決意を述べて懇談会は終了した。

（広島県生協連 福島 守）





きらり健康生協の須川診療所の見学



米の全量全袋検査



認知症専用のデイサービスで

2018年11月29・30日、広島県生協連は、福祉介護委員会のメンバーを中心とし、福島県のきらり健康生協の介護事業と人材育成を学ぶために福島を訪れました。現地では、福島原発事故以後の状況を聞くとともに、放射能検査の実際を見学しました。

参加者は、広島医療生協、広島中央保健生協、生協ひろしま、福山医療生協の4協会から寄せられた数千万円のボディカウンターで体内被曝線量を測つて、いとく感じました。福島医療生協わたり病院では、全国の医療機関から寄せられた数

（広島県生協連 岡崎 晃）

# 2018トップ 클래스スタディ in 福島

生協の専務理事と介護事業の部課長クラス、県生協連の専務理事他の合計11名。

医療・福祉の現場では、

2日目は、まず、福島県生協連で原発事故後の福島の状況をお聞きし、市内3ヶ所で放射能測定を見学。

福島生協連では、佐藤専務から「東日本・津波・原発事故大震災から7年8ヶ月」と題したお話しを伺いました。佐藤専務は、「浜通り」「中通り」を「元通り」にするのが願いです。と、強い口調で語ります。

最後に、福島市による米の全量全袋検査場、JAふくしま未来の農産物モニタリングセンターを見学しました。検査場では、これが手間と費用をかけて安全性を確認しないといけないということの重大性を強く感じました。福島医療生協わたり病院では、全国の

医療機関から寄せられた数千万円のボディカウンターで体内被曝線量を測つて、いとく感じました。福島医療生協わたり病院では、全国の

医療機関から寄せられた数千万円のボディカウンターで体内被曝線量を測つて、いとく感じました。福島医療生協わたり病院では、全国の

## 消費者の

報告がありました。

続いて、広島消費者協会から協会の概要説明と2018年度の活動報告がありました。

講演ではファイナンシャルプランナーの倉橋孝博氏より西日本豪雨災害のような災害に対する備えについてまた生活に役立つ金融商品との上手な付き合いについて分かりやすい説明がありました。

（広島県生協連 森昌哲司）



講師の倉橋氏

（写真下左）熱心話しに聞き入る参加者  
（写真下右）大勢の聴講者で埋まった会場



# 広島県庁からのお知らせ

## 『ひろしま県民だより 冬号』

を発行！

広島県の取組をわかりやすく紹介するため、年4回発行している「ひろしま県民だより」。1月3日発行の冬号のテーマは「広島一丸」。

元広島東洋カープ・新井貴浩さんがユニフォーム

姿でマツダスタジアムに立った最後の日に、県民の皆さんに向けたメッセージをいただきました。また、

復旧復興に向け県内とともに新たな一步を踏み出す方々のインタビューや、県の中山間地域振興の取組

を紹介しています。

紙面は1月3日の新聞折込、コンビニ、スーパー等の県政情報ラックで手に入れることができます。ウェブ限定でスペシャルプレゼント企画も実施中ですので、ぜひご覧ください。



# 消費者ネット広島情報

## 消費者トラブルの手口を知ろう。11

近年、振り込め詐欺やインターネットを悪用した詐欺などの被害が後を絶ちません。消費者トラブルは身近なところに存在しています。情報を知り、被害にあうことがないよう、また被害にあったときの対処法について、日頃から備えておきましょう。

「保険金の手続きをサポートする」と勧誘する住宅修理に注意（2018年11月20日 独立行政法人国民生活センター 見守り新鮮情報第322号より）

### ■事例

来訪した事業者に「家屋に壊れたところはないか。損害保険で負担なく修理が出来る」と言われたので、数年前の大雪でベランダの屋根がゆがんだことを話すと、調査員を手配すると言うので申込書にサインした。申込書をよく見たら「保険金額が、見積金額より安く工事が困難な場合は、30%の手数料を払う」と記載されていた。手数料の話は聞いていないし、不審なので申し込みをやめたい。（70歳代 女性）

### ■ひとこと助言

★自然災害による住宅修理について「保険金が使える」と勧誘されても、損害保険金が実際にいくら支払われるのか、また、そもそも保険金が支払われるかどうか分かりません。まずは自身が加入している保険契約の内容を確認し、契約している保険会社や代理店に相談しましょう。

★住宅修理とは別に、保険金を請求する手続きをサポートするという契約をさせられ、その手数料を請求される場合がありますが、保険金の手続きの手数料は損害保険の補償対象とはなりません。

★「自己負担はない」と住宅修理の勧誘をされても、本当に負担なく必要な修理が出来るかどうか分かりません。その場ですぐに契約せず、修理の必要性や契約内容を十分に確認し、家族や周りの人にも相談しましょう。

★不安に思つたときは、早めにお住まいの自治体の消費生活センター等にご相談ください（消費者ホットライン188）

## 理事会・委員会報告

### 第3回理事会報告

■開催日 12月6日  
出席 理事18名中17名

### ■決議事項

・2019年度通常総会要項、上程議案について

・他団体の公職承認について

・2018年度上期監査報告及び2018年度末経費執行予測について

・2018年度活動報告（中間）及び2019年度方針について

・広島県生協連に寄せられた西日本豪雨災害支援金の用途について

・広島県編集責任者会懇談会の実施について

・ヒロシマについて

・ヒバクシャ国際署名の取組について

・戦争も核兵器もない平和な世界を市民の集い報告

・2019年度平和活動報告

・2019年新春のつどいの開催について

・ヒロシマについて

・ヒバクシャ国際署名の取組について

・戦争も核兵器もない平和な世界を市民の集い報告

・トッピケースタディ研修（きらり健康生協）の目的について

・2019年度の課題について

・実務者研修スクーリングについて

# MESSAGE



くるみ割り人形



写真: Jun Takagi

## 「ヒバクシャ国際署名」に思いを寄せて

### 平和への祈りを舞踊に入めて

「後世の人々が生き地獄を体験しないように生きているうちに何としても核兵器のない世界を実現したい」、そうした強い思いから始まったヒバク

シヤ国際署名。2016年以來多くの方にご賛同いただき、現在830万人以上の署名が集まつておられること、思いを同じくする者の一人として大変心強く思うと同時にご関係の皆様の地道で着実な歩みに心より感謝申し上げます。

祖母の人生が私に教えてくれたこと

私は1948年、広島に生まれました。祖母は爆心地近くで被ばくし、左半身に大きなやけどを負つていました。小学校の頃、バレエにすっかり夢中になつた。そんな私の人生は、長い休みのためにレッスンに行くようになつていまし

た。そんな私の費用のため母はステキハウスはじめ、母に代わつて私と妹の面倒を祖母がみてくれるようになりました。

祖母は「お経まで上げられるようなばくをしたけれど、今こうして生きられる」と、生きていること、命あることに常に感謝していました。指がくついてうまく動かせないこと

も「親指一本使えば洗濯ができる」と明るく笑い、平気で銭湯にも一緒に行きました。一切愚痴を言わず、明るく前向きに生きる祖母の人生が私に教えてくれたことの大さが、年を経ることなっています。

バレリーナ 森下 洋子

#### ●プロフィール

松山バレエ団 理事長・団長 プリマバレリーナ  
1948年、広島市生まれ。3歳よりバレエをはじめ、葉室潔、洲和みち子、橋秋子、ジュベツコフに師事。12歳で単身上京。1971年、松山バレエ団のメンバーとなり、松山樹子に師事。1974年、ヴァルナ国際バレエコンクールにて金賞受賞。エリザベス女王戴冠25周年記念公演など海外でも幅広く活躍。英國ローレンスオリビエ賞など日本人として初めてとなる数多くの賞を受賞。1977年、女性最年少の文化功労者として顕彰される。2001年、松山バレエ団の団長に就任。松山バレエ団プリマバレリーナとしてほとんどどの公演に主演する一方、バレエ団の創造活動の要として活躍。日本芸術院会員。

### バレエで心を結ぶ

今もいろいろなところで戦争が起っています。争い、醜(みにく)い原爆をつくる人間は、同時にどんなことがあっても絶望から立ち上がり、手を取り合つて平和で豊かな未来を開いていく美しい魂も持つている、そのことを祖母から教えてもらつたように思います。

3歳ではじめたバレエは、私の人生のすべてとなつており、現在舞踊歴67年目を迎えております。最初はただ「好きだから」はじめたバレエですが、20代のころ、パートナーである清水哲太郎に「君は何のために踊るのか」と問われました。その問い合わせの前で立ち止まり、考えました。そんな中、松山樹子先生の「白毛女」の舞台を観て、鳥肌が立つよ



ジゼル 2幕

平和とよりよい生活をめざして  
**広島県生活協同組合連合会**

〒730-0802 広島市中区本川町2-6-11  
第7ウエノヤビル 5F  
TEL 082-532-1300 FAX 082-232-8100  
E-mail : kenren.h@proof.ocn.ne.jp  
URL : http://hiroshima.kenren-coop.jp

【編集室から】

新しい年を迎えると、「年賀状」によって、これまで交流のある知己や友人、親戚の消息を知ることができます。そういう意味では想いに深く打たれ、松山バレエ団に入団しました。SNSやスマート普及で激減しているというニュースでは、その年賀状が昨年に比べて数億枚減少したというのだから、郵便事業の先細りを人ごとながら心配する▼だが、郵便事業のことを心配する前に、年とともに、自分の身の回りから、世間、知人友人、仕事関係の関わりと情報が、急速に減つてくるのに気づかされる。ましてや、現役を離れたとたんに、男は仕事を離れた時のことを考えて、社会との接点を失い、孤立していく自分に茫然自失する有様だ。といふわけで、男は現役時代から、いうわけでも、男は現役時代から、年賀状を出せない、出さないという断りの賀状が数多く届いている。他人事でないのだ…。(Y)